

令和7年度 茨城大学教育学部附属特別支援学校 学校評価（Ⅰ） 自己評価表

評価基準 A：目標を十分達成できた。 B：目標をほぼ達成できた。
C：目標はあまり達成できなかった。 D：ほとんど目標が達成できなかった。

Ⅰ 学部・学級について

学校経営方針		茨城大学教育学部附属特別支援学校として、児童生徒の思いや保護者、教師の願いを大切に、楽しさや豊かさにつながる学びを通して児童生徒の「なりたい自分」の更新や実現を図るとともに、「日々の教育の一層の充実」「教員養成」「研究・発信」「キャリア教育・情操教育の充実」の四つのミッションの達成に努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		成果と次年度への課題	
部 経 営	○日常生活に必要な基礎的・基本的な力や集団生活の参加に必要な基礎的な態度を育成する。(①-1)	・児童一人一人の発達段階や特性に応じた指導に取り組み、家庭と連携し、一人一人の興味・関心に寄り添った支援に取り組み。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の記録（連絡帳）、個別面談、送迎時の情報交換や電話連絡などで、こまめに保護者と共通理解を図りながら支援を進めることができた。 ・中学部・高等部と情報交換したり大学の教授に助言を受けたりしながら、音楽科の実践に取り組んでいる。引き続き授業改善に努めていく。 ・学生の個性に寄り添い、丁寧な教育実習指導を実践できた。 ・児童の興味・関心に沿った関わりを心掛けた。児童の思いを受け止め、実現する経験を積めるよう支援していきたい。 	
	○児童の内面や生活を豊かにする授業づくりを実践し、授業改善を図る。(②-1)	・中学部・高等部、大学や専門機関との連携を図り、授業力向上のための研究・実践に取り組む。	B			
	○学生と児童一人一人の良さを大切に、互いに関わりを深められるような態度を育成する。(③-1)	・学生の個性を受け止め、学生の思いに寄り添う姿勢で、児童との関わりや授業づくりについて適切な助言、指導を行う。	A			
	○児童と保護者の思いを大切に、個々の発達段階や特性に応じたキャリア教育を推進する。(④-1)	・児童の好きなこと、楽しいことに一緒に取り組みながら、「なりたい自分」に気付くような支援を行う。	B			
小 学 部	1組	○日常生活を送る上での基礎的・基本的能力を高めることができるようにする。(①-1)	・児童の実態や課題、家庭の状況や保護者の思いについて教員間で共通理解を図ることで、一人一人に応じた指導、支援を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間や保護者との連携を密にし、協力して対応することで、日常生活の中でできることが増えた。さらに効果的な支援を考えていきたい。 ・実態に合った授業作りを行うことで、児童が意欲的に思いを表現することができた。一方で、受動的・消極的になる場面も見られた。 ・児童や保護者の気持ちに寄り添い、見通しを大切に支援を行うことで、生き生きと活動することができた。集団の中の活動を意識させたい。 	
		○児童が「もっとやりたい」と感じ、内面を豊かにすることができる授業づくりを実践する。(②-1)	・児童や保護者の思いを踏まえ、部内、他学部、外部と連携しながら児童の実態に合った授業づくりや、評価、授業改善を行う。	B		
		○児童と保護者の思いを大切に、児童一人一人が「集団の中で、生き生きと活動できるようにする。(④-1)	○児童が楽しいと感じる活動と一緒に取り組む中で、思いや気付きを共有し、「できた」を実感できる支援を行う。	B		
2組	○児童の発達段階に応じた授業を実践し、「分かった」が実感できるように授業改善を図る。(②-1)	・分かりやすく目標を提示し、試行錯誤したり、児童同士の関わりを大切にしたりすることで学習成果を実感できる実践を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に応じた目標設定、友達を意識した活動を設定することで、できる課題が増え、楽しく取り組むことができた。 ・教育実習中の授業作りで、課題点を共に考え、改善できたことを伝えることで実習生が達成感を感じながら進めることができた。 ・児童と共に楽器の演奏や合 	
	○学生との対話を大切に、学生が児童の良さに気付くことができるような態度を育成する。(③-1)	・学生の良さを具体的に伝えることで、自信をもって児童と関わり、授業づくりへの意欲が高まるようにする。	B			
	○音楽や動物との触れ合いをとおして「本物」の経験を積み重ねることで、内面を豊かにする。(④-2)	・音楽を聞き心地よさを感じたり、動物に直接触れ合ったりすることで、児童の気付きを促し、思いを大切にする支援を行う。	A			

					<p>唱をして音楽を味わい、やぎと触れ合う体験を通して生き物の温かさを感じることで、児童の気持ちを豊かにすることができた。</p>
3組	<p>○児童が自身のやるべきことを意識し、見通しをもって前向きに取り組む態度を養うことができるようにする。(①-1)</p>	<p>・学習活動の目標を視覚的に提示し、児童の実態に合わせて丁寧に確認することで、見通しをもって主体的に取り組めるようにする。</p>	A	<p>・児童の個々の実態に合わせて活動内容を視覚的に提示したり、言葉掛けの内容を精選したりすることで、見通しをもって意欲的に取り組むことができた。</p> <p>・学生と身近な話題について伝え合う機会を計画的に設定し、お互いの良いところを教師が積極的に称賛し伝えることで、学生に興味関心をもって関わる事ができた。</p> <p>・児童の様子や保護者からの情報を密に共有し、児童の長所短所を積極的に伝えることで、自分らしさに気付くことができた。</p>	
	<p>○学生との関わりを通して、相手のよさを理解しようとする気持ちが育つようにする。(③-1)</p>	<p>・学生とお互いのよさを伝え合う機会を設けることで、多様な考え方に触れ、相手のよさを認めることができるようにする。</p>	B		
	<p>○児童の実態を的確に把握し、学級担任間で密に情報共有することで、なりたい自分を見つけられるようにする。(④-1)</p>	<p>・状況の観察や保護者からの情報を学級担任間で共有し、日々の指導に生かしたり、長所短所に気付いたりする機会を設けることで、児童の自己理解が深まるようにする。</p>	A		
4組	<p>○児童がお互いに認め合い、お互いを大切にしながら、一人一人が安心して自分を表現できるような学級集団を育てる。(①-1)</p>	<p>・教師自身が児童一人一人の個性を認めて肯定的に関わる。児童同士の関わり合いを意図的に設定したり、思いやりのある関わり方のロールプレイを取り入れたりする。</p>	A	<p>・児童一人一人に対して、頑張りや良い行いをこまめに称賛することで、児童同士がお互いの良いところに気付くことができた。</p> <p>・ふわふわ言葉を大切にしたり、思いやりのある友達との関わり方をロールプレイ等を通じて学ぶことで、お互い安心して一緒に生活することができた。</p> <p>・実習生の支援の良い点をこまめにフィードバックすることで、実習生が自信をもって児童と積極的に関わるようになり、児童が実習生との生活を心に残る思い出として感じ、感謝の思いをもつことができた。</p> <p>・やぎふれあい体験を通して、生き物の感触や力強さ等を感じたり、音楽の授業等を通して、共に歌うことや楽器の音色を聴くことを存分に楽しむ体験をしたりすることで、児童が学校生活に充実感をもつことができた。</p>	
	<p>○教育実習生との関わりを通して、人との出会いを大切に、感謝する態度を養うことができるようにする。(③-1)</p>	<p>・実習生が自分の良さを発揮できるような肯定的な指導を行うことで、実習生が積極的に児童と関わる事ができるようにする。実習生への感謝を伝える活動を取り入れる。</p>	A		
	<p>○動物とのふれあいや様々な音楽活動を通じて、児童の感受性に働きかけ、豊かな情感を育てることができるようにする。(④-1)</p>	<p>・やぎとのふれあい体験を積極的に行い、生き物の力強さなどを感じることができるようになる。それぞれの児童の興味関心や特性に合った音楽活動を取り入れることで、充実感や感受性が高まるようにする。</p>	A		

学校経営方針		茨城大学教育学部附属特別支援学校として、児童生徒の思いや保護者、教師の願いを大切に、楽しさや豊かさにつながる学びを通して児童生徒の「なりたい自分」の更新や実現を図るとともに、「日々の教育の一層の充実」「教員養成」「研究・発信」「キャリア教育・情操教育の充実」の四つのミッションの達成に努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と次年度への課題
部 経 営	○集団生活へのより良い適応力と心身の健康の増進を図る態度の育成に努める。(①-1)	・生徒の実態に即して指導の形態を工夫し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の実践を行う。	B	B ・教科ごとに生徒の実態に合わせた指導形態や方法を検討しながら指導を行うことができた。今後、さらに一人一人により適切な指導の充実を図る必要がある。 ・音楽の授業研究を行う中で、友達や教師に自分の思いを積極的に伝えて一緒に活動する場面をつくることができた。今後は、他の教科や領域でも必要な支援を考えていく必要がある。 ・教育実習中に、学生が安心して教師と話ができる環境づくりをし、生徒と学生が積極的に関わりながら様々な活動を行うことができた。 ・キャリアの授業を中心に、大学と連携する中で、自分の好きなことや苦手なことを知りながらなりたい自分について考える機会をつくることができた。
	○友達を信頼し、自分の考えや気持ちを相手に伝えようとする力の育成に努める。(②-1)	・小学部や高等部、大学や専門機関と連携し、生徒の思いや表現を大切にしたり良い授業づくりの実践を積み上げていく。	B	
	○様々な経験を通して、興味関心をもち、学生や教師と主体的に関わろうとする力の育成に努める。(③-1)	・学生と教員との話し合いの場を適宜設け、教育実習中に互いに積極的に生徒と関わり充実した学校生活ができるような環境づくりや支援を行う。	B	
	○自分の役割を知り、豊かな社会生活を送るために必要な基本的な力の育成に努める。(④-1)	・小学部や高等部、大学や専門機関と連携し、なりたい自分をイメージできるようなキャリア教育の充実を図っていく。	A	
中 学 部	○集団生活でのコミュニケーションを高め、お互いに認め合うことができるようにする。(①-1)	・生徒の実態に応じて、教師が仲介して情報を整理したり、コミュニケーションを高めたりすることができるようにする。	B	B ・教師とのやり取りを通して、自分の気持ちをどのように相手に伝えたらよいか等、自他の思いの伝え方や受け取り方が分かったことで、生徒同士が積極的に関わり合えるようになってきた。 ・トーンチャイムを使って音階の順に並んで音を鳴らしたり、あえて並び方を変えて鳴らしたりすることで、友達と気持ちを合わせて楽しさを味わうことができた。 ・自分ができたと実感できるような場面で称賛し、自信をもてるようにしたことで、なりたい自分を目指して自分から活動に取り組むことができるようになった。
	○音楽を通して友達と気持ちを合わせる楽しさを味わうことができるようにする。(②-1)	・小グループで音を合わせる経験を繰り返したり、教師が気付きを促すような言葉掛けやフィードバックをしたりして、音楽の楽しさを味わうことができるようにする。	B	
	○「なりたい自分」に近づくために、やりたいこと・やってみたいことを増やすことができるようにする。(④-1)	・手本を示したり、視覚的な教材を提示したりして不安感を取り除くことで、いろいろなことに挑戦する環境を整え、「できた」実感をもてるようにする。	B	
2 年	○日々の言葉遣いや距離感を大切に、互いに快適な関係を築こうとする態度を育成する。(①-1)	・教師が言葉遣いや距離間の手本を示し、一緒に理由も考えることで、互いに気持ちよく生活できる環境を整える。	B	B ・4月は学級という感覚がまだ育っていなかったが、挨拶や言葉遣い、距離感などをその場で一緒に考えることで、場や相手に応じた言動が増えた。 ・音楽の授業を通して、夏の歌でわくわくしたり、手拍子リレーでみんなで協力しながら楽
	○音楽の授業を通して、「楽しい」「わくわくする」などの気持ちを表現することができるようにする。(②-1)	・音を聴いたり、奏でたりする中で、「歌が楽しい」「きれいな音」「好きな音」などのキーワードを提示し、自分の気持ちを整理できるようにする。	A	
	○生徒の思いや特性を生かした活動	・生徒の実態に合わせた自他の思いの伝え	B	

		の中で、目標を達成できた際に学級で称賛し、自己肯定感を育てながら、なりたい自分のイメージをもつことができるようにする。(④-1)	方や受け取り方について、道徳やロールプレイ等を通して考え、集団生活を送るための基礎的なコミュニケーション能力を高めることができるようにする。			しく拍をとったりすることができた。 ・朝の会などを活用し、生徒が教師と一緒に目標を決めて、帰りの会で成果を認め合う場をつくっていったことで自己肯定感を少しずつ育むことができた。
3年		○生徒の思いや特性を生かした活動を設定し、共感的理解に基づいた支援を通して、生徒自らが達成感を味わい、笑顔あふれる楽しい学校生活を送ることができるようにする。(①-1)	・生徒や保護者の思いについて教師間で共通理解を図り、課題を精査した上で学習計画を練り上げ、段階を意識した授業実践をすることで、生徒が楽しく学び、自己肯定感を育むことができるようにする。	A	B	・教師、保護者ともに積極的に情報共有を図り、一貫した支援方法を取ることで、生徒の中にメリハリをつけて行動することができる場面が多くなった。
		○音楽をとおして、生徒同士がお互いに関わり合い、認め合うことができるようにする。(②-1)	・生徒の実態に合わせた音楽表現による思いの伝え方や受け取り方について、ロールプレイ等を通して考え、お互いに関わり合うことや認め合うことができるようにする。	B		・好きな音楽をお互いに紹介して聞いたり、身体でどのように表現したりするかを見合うことで、それぞれの良さを認め合うことができた。
		○音楽や動物との触れ合いをとおして、生活や内面を豊かにできるようにする。(④-2)	・音楽の中で自分の好きなどところを見つけたり、山羊との触れ合いをしたりすることで、自分の中での満足感や他者への思いやりの心が育てられるようにする。	B		・音楽の中に自分の好きなどところを見つけたり、山羊との触れ合いをしたりすることで、満足感を得たり、友達に優しくしたりすることができた。

学校経営方針	茨城大学教育学部附属特別支援学校として、児童生徒の思いや保護者、教師の願いを大切に、楽しさや豊かさにつながる学びを通して児童生徒の「なりたい自分」の更新や実現を図るとともに、「日々の教育の一層の充実」「教員養成」「研究・発信」「キャリア教育・情操教育の充実」の四つのミッションの達成に努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と次年度への課題	
高等部	部経営	○自己実現を果たすべく、自立と社会参加を目指した社会生活に対応できる能力の育成に努める。(①-1)	・個に応じた支援の充実に努め、様々な関わりを通して、生徒一人一人の自立と社会参加を目指し、自己実現ができるようにする。	B	・本校のグランドデザインでもある「なりたい自分」を常に意識し、授業や行事等においても、「自分はどういうふうになりたいか。」「何をがんばりたいか。」「何をがんばりたいか。」等目標を明確にした。また、生徒の主体性を大切に、生徒同士の話し合いや意見を尊重し、考えながらキャリアの学習を行った。 ・今年度、対外活動や行事等で様々な経験を積むことができた。次年度はさらに行事を精選しても目標を達成できるよう、検討していきたい。
		○生徒の主体性を大切に、話し合い活動等、様々な体験を通して充実した授業づくりに努める。(②-1)	・生徒の興味関心ややりたい気持ちを第一に考え、自分の意見を伝えたり、相手の意見に共感したりしながら、活発な授業を行う。	A	
		○学生と共に、生徒一人一人の良さを大切に、互いを尊重し合い、自己肯定感を高め合う実習の実現に努める。(③-1)	・生徒の的確な実態把握と支援方法を共に考え、卒業後を見据えた支援を行いながら充実した教育実習を過ごせるようにする。	B	
		○生徒の「なりたい自分」と保護者の思いを多角的に捉えつつ、関係機関と共通理解を図りながら進路指導に努める。(④-1)	・「なりたい自分」に近づき、進路を選択・決定していけるように、保護者や外部機関と一人一人に応じた進路指導を行う。	A	
	1年	○クラスの中のコミュニケーションを通して安心を感じ、そこから主体的に活動しようとする授業作りや学級づくりに努める。(①-1)	・お互いのコミュニケーションを大切にすることでクラスの帰属感から安心を感じられるようにし、主体的に自分から進んでやろうという気持ちを育めるようにする。	B	
		○学生と生徒が自然に関わる中で、人と関わる仕事の楽しさ、奥深さを味わえるよう努める。(③-1)	・クラスのコミュニケーションの中で、学生が生徒と自然に関わるようにすることで、学生が仕事の楽しさを感じられるようにする。	B	

	○生徒が充実した楽しい生活を送れていると実感できる日々の教育の積み重ねに努める。(④-1)	・生活や行事の中で、生徒の「なりたい自分」にふさわしい行いの場面を賞賛し、自信をもって日々の生活を送れるようにする。	B		話してくれたが、給食中など、教師が間に入らないと会話が止まってしまうこともあった。自然に関われるようにしていきたい。
2年	○主体的なコミュニケーションや思考の具現化を通して、達成感や成就感を感じることができる学級づくり、授業の実践に努める。(①-1)	・積極的にICTを活用し、思考の視覚化や優先順位の整理、意志の伝達や余暇の充実など、教師の称賛と具体的な成果物の提示によって、自己を肯定的に捉えることができるようにする。	B	B	・目標については、全体的に概ね達成することができた。 ・生徒が「なりたい自分」を思い描き、その姿に向かうという点については、十分深めることができなかった。生徒の出席状況や体調面の支援が主になってしまい、「キャリア」を主眼に置いた支援の方向性には、改善の余地がある。
	○学生が、特別支援の面白さ、教員としての楽しさを見つけることができる実習になるよう努める。(③-1)	・学生が生徒に対する支援を試行錯誤する姿を尊重し、肯定的かつ効果的なフィードバックを行うことで、自信を付けつつ、改善を踏まえた支援を考えることができるようにする。	B		
	○生徒が「なりたい自分」の具体的な想像、更新できる、校内・現場実習等のキャリア教育の積み重ねに努める。(④-1)	・校内・現場実習などの学校行事を機会とし、「なりたい自分」を実現するための目標の設定、振り返りを通して、自己実現を果たすことができるようにする。	B		
3年	○生徒同士で主体的に話し合い、協力して活動を進めることができる授業づくりや学級づくりに努める。(①-1)	・「失敗しても大丈夫」という安心感の中で、生徒に任せる場面を増やし、生徒から出た考えや結論を尊重しながら活動を進めることで、生徒同士で主体的に活動し、互いに認め合うことができるようにする。	B	B	・様々な活動において、生徒同士で話し合いをしたり、状況に応じて協力したりすることができた。平等に意見を取り入れることができつつあるが、引き続き意識して支援をしていく。 ・休み時間などの会話や授業中など、学生と生徒が主体的に関わり合うことができており、学生からは「実習が楽しかった。」「進路変更をして特別支援学校の教員を目指す。」との感想があった。 ・「なりたい自分」をイメージし、初めての活動や現場実習で課題となった活動にも主体的に取り組むことができた。卒業後の「なりたい自分」の有無については、生徒によって個人差がある。
	○学生と生徒が、主体的に関わり合い、「思いが伝わる楽しさ」など教員の仕事の楽しさを味わうことができる実習の実現に努める。(③-1)	・学生指導にあたっては、学生の思いや考えを尊重し、傾聴的な態度で関わることで、学生が安心して実習に取り組み生徒との関係を深め、充実した実習を過ごせるようにする。	B		
	○生徒が「なりたい自分」を具体的にイメージし、実現に向けて努力し達成することができるキャリア教育に努める。(④-1)	・運動会や現場実習など身近な場面での「なりたい自分」や日々の行動を具体的に考えることで、「なりたい自分」になるための努力をしたり、実現して達成感を味わったりすることができるようにする。そのような経験を重ねることで、卒業後の「なりたい自分」を具体的に考えることができるようにする。	B		

2 校務分掌について

学校経営方針		茨城大学教育学部の附属学校として、児童生徒の思いや保護者、教師の願いを大切に、楽しさや豊かさにつながる学びを通して児童生徒の「なりたい自分」の更新や実現を図るとともに、「日々の教育の一層の充実」「教員養成」「研究・発信」「キャリア教育・情操教育の充実」の四つのミッションの達成に努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と次年度への課題		
教務部	教務企画	○儀式的行事(入学式、卒業式等)の円滑な運営に努める。(①-1)	・オンラインなど開催方法を工夫しながら、学びやその成果を全校で共有できるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 改修工事開始以降、始業式・終業式はオンラインで実施することで、他学部の参加の様子も画面を通して知ることができた。卒業式は大学を借用しての参集開催を検討している。 発信したい情報の内容に応じて、紙媒体、ホームページ、まちコミメールでのデータ配信など、発信方法を工夫することができた。児童生徒の様子だけでなく、改修工事の進捗状況についても発信するよう努めた。 	
		○日々の教育活動の積極的な発信に努める。(②-2)	・本校の教育について、各種お便りやホームページ等効果的な発信方法を工夫し実践する。	B		
	庶務・表簿	○各表簿の電子化に伴う共通理解、効率化の継続を図る。(①-2)	・電子化になった表簿の周知を徹底しながら、事務作業の簡略化・効率化に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 表簿関係の電子化を継続することができ、効率化を図ることができたと共に、適切に管理することができた。次年度以降も、より良い効率化や表簿作成に伴う共通理解事項の徹底を行っていきたい。
		○各表簿の適切な作成・管理に努める。(①-2)	・年間に2回、各表簿の点検を行い、作成状況の把握及び適切な管理に努める。	B		
	PTA 関係	○保護者との連絡調整を適宜行いながら、PTA活動が円滑に進められるようにする。(②-2、④-1)	・担当職員が、PTA 運営委員や専門委員と必要に応じて連絡を取り、活動についての相談や調整に応じられるようにする。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員が、保護者や職員と連絡、調整を行い、茶話会や関附連の実施を行うことができた。関附連では、PTA ボランティアを各系の先生方にもご協力いただき、多くの保護者にご協力できた。起案や回覧を行っていてもミスがあったので、先生方や保護者に渡す文書等は、再度必ずダブルチェックを行ってからお知らせするようにしたい。
		○保護者と職員が一丸となり、PTA 行事や関附連などを限られた場所や時間の中、効率よく実施できるようにする。(②-3)	・保護者、職員が共通理解を図りながら計画を進め、役割分担をすることで、内容の充実を図る。	B		
	教科書・図書	○教科書関係の書類作成を適切に行う。(①-2)	・今年度の教科書システムの実態を把握するとともに、教科書の活用を勧める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新教科書システムとなり、登録の仕方が大きく変更になったが、部員同士で連絡を取り合い、期限前に確実に登録することができた。 季節のおすすめコーナーや新刊コーナー等を設置して、児童生徒が本に興味をもてるようにした。
		○児童生徒が行きたくなる図書室の環境を整備する。(④-1)	・児童生徒の実態に即した図書室の環境を整備する。	B		
地域支援部	教育相談・地域支援	○特別な配慮を要する児童生徒の共通理解を図り、学校全体で支援を行う。(①-1)	・学校全体で情報共有する場を設定したり、必要に応じて校内支援会議を行ったりする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月に教員全体で、特別な配慮を要する児童生徒について情報共有を行った。 3名の生徒について校内支援会議をもち、スクールカウンセラーを含めた学校全体で組織的に支援を行った。 地域の教育委員会の要請に応じて小中学校教員向けの研修を実施したり、附属学校の要請に応じて巡回相談を行ったりした。 水戸市の調査員として、要請に応じて幼児児童生徒の検査や保護者面接を実施した。
		○附属学校園、地域の学校等、関係諸機関に対し、各々のニーズに応じた相談・支援を行い、センター的機能の役割を果たす。(②-3)	・支援要請のあった各機関のニーズを丁寧に把握し、必要に応じて関係機関と連携しながら継続した相談・支援を行う。	A		

情報教育部	視聴覚機器管理 ・HP管理係	○情報機器を活用した授業づくりを推進する。(①-1)	・手順表などやり方が分かるものを作成したり、ミニ研修を通じたりして共有する。	B	B	・毎月ミニ研修を実施し、情報機器を活用した授業づくりを推進できた。ICT支援員と連携し、フィンガーボードの教材やワークシートを作成してもらい共有することができた。 ・視聴覚機器の使い方や設営方法について共通理解を図り、運動会等の行事で運営することができた。
		○視聴覚機器の効果的な運用と適切な管理に努める。(②-2)	・学校行事や公開研究会などにおいて、係員で役割を分担し、スムーズな放送に努める。	B		
学生教育部	教育実習 (事前事後、一日体験を含む)	○実習内容・方法等の見直しや改善を行い、教員になりたいと思えるような充実した実習となるように努める。(③-1)	・大学の担当者等と連携を図り、実習内容や方法を見直し、実習生の実態等に応じて改善することで、教育の質を確保する。	B	B	・学級指導などで教員の魅力を伝えたり、実習生の目標を確認し、成果を認め、賞賛する場を設けたりした ・教室環境もあり、T2の体制での授業が多かった。指導案や授業の内容、生徒の実態に応じた手だて等を2名の実習生で協力して考える時間を設けた。T1はT2の立場を、T2はT1の立場を考慮しながら互いに授業を組み立てることができた。
		○学校での諸活動の楽しさを感じ、自主的に実習に臨むことができるような体制作りに努める。(②-3)	・各部間で連携を図り、児童生徒との関わりを大切にしたい指導や実習生同士が認め合える場の設定を工夫する。	A		
学生教育部	介護等体験	○介護等体験に参加する学生が各学部で目標に応じて、安全に、生き生きと主体的に活動できるように計画する。(③-1)	・担当教員、大学など関係者と連携して、目標等を学生とも共通理解を図り、円滑に実施できるようにする。	B	B	・計画通り実施することができた。ただ、感染症の対策はしても、やむを得ずかかってしまう学生もいる。お互いに無理をせずに実施できるようにしていきたい。 ・特別支援教育や本校の取り組みについて学校概要講話では話したが、児童生徒の配慮等について最初に話した方が良いのか検討をしたい。
		○体験する学生が特別支援学校で過ごし、障害のある児童生徒や特別支援学校について理解する機会とする。(②-3)	・各部、各学級に学生を配置し、目標に応じて、児童生徒と関わる場を設定する。	A		
生徒支援部	生徒指導	○教師の専門性や得意分野を生かし、生徒支援を総合的に推進する。(④-1)	・様々な分野の問題に対して生徒支援部のみで対応せず、他の教員の専門性を活用したり、外部専門家の助言を受けたりして、総合的に対応できるようにする。	A	A	・茨城大学の金丸先生に研修会をしていただき、生徒指導に対する専門性を向上させると共に、現在本校で起きている問題に対しても助言をしていただいた。そのことにより、いじめに対する理解を深め、総合的な問題を詳細に対応することができた。 ・生徒に関する情報を週に一度生徒支援定例会で共有した。また、いじめアンケートの結果を部といじめ防止委員会で共有し、迅速かつ丁寧に対応することができた。
		○児童生徒の人間関係の不安や生活上での悩みなどを早期発見し、児童生徒が安心できる学校を実現する。(①-1)	・いじめアンケート結果や日々の問題を週に一度行う生徒支援定例会で共有し、諸問題に対して迅速かつ丁寧に対応できるようにする。	A		
	通学指導	○年間を通してスクールバスを安全に運行できる環境をつくる。(④-1)	・教職員やSB関係者、保護者と常に情報共有し、運行上の危険箇所や児童生徒の危険行動には迅速に対応をする。 ・SBにおけるシミュレーション訓練を行い、緊急時の対応ができるようにする。	B	B	・教職員やSB関係者、保護者と常に情報共有を行い、問題が起きた場合には状況確認を行い、迅速に対応することができた。 ・SBにおけるシミュレーション訓練を行い、緊急時の対応をできるようにすることで、安全に運行できる環境づくりを行うことができた。 ・今年度は、自力通学がいる高等部を対象に、ひたちなか警察署と連携をして交通安全教室を行った。そのことにより、自力通学時に気を付ける部分を意識して、安全に通学ができるようにした。
○自力通学生徒が安全に通学できるようにする。(①-2)		・自力通学のシステムをもとに練習を行ったり、交通安全に関する学習をしたりするとともに、保護者の協力を得ながら常に安全性を保つことができるようにする。	A			

キャリア教育部	キャリア教育 (親の会)	○「キャリア通信」の定期的な発行を行うことで、キャリア教育の推進に努めることができる。(②-2)	・キャリア通信の内容の精選を行うと共に、本校の進路指導や小中高の系統的なキャリア教育の内容を発信する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア通信の内容、精選については、今後も引き続き行う必要がある。進路指導の掲示板も新設したため、他部との繋がりや系統性を踏まえた内容も取り入れていきたいと思う。 ・定期的な卒業生の追指導、大同窓会など親の会の方と卒業生を含めた行事の運営補助を行うことができた。今後も継続していきたい。
		○余暇活動の充実や卒業生支援に努める。(④-2)	・二十歳の集いを親の会と連携しながら開催したり、卒業生の追指導を実施したりする。	A		
保健安全部	保健指導	○児童生徒の健康の保持増進を目指す。(①-1)	・基本的生活習慣の定着を軸に、各部と連携し、性に関する指導や肥満防止に関する健康教育を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の実態に合わせた内容の健康教育を実施することができた。実施時期や内容については、今後も各部と連携し進めていきたい。 ・第1回学校保健安全委員会では、保護者の情報交換の時間を設けたことが好評であった。改修工事に伴い参集形式での開催が難しくなるため、今後は資料配付形式を検討している。
		○OPTA と協力し、保健に関わる行事を協力して行う。(④-1)	・学校保健安全委員会で、保護者の困り感を解決に導く内容を中心に実施する。	B		
	防災・安全	○学校全体で危機管理・防災意識をもてるよう、係を中心に様々な情報を共有して活動する。(④-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・市の生活安全課や保護者と連携した職員防犯研修や避難訓練を定期的に行う。 ・市の生活安全課や大学と連携し、備蓄倉庫や緊急時に使用できる校内施設を確認する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに、消防署や保護者と協力をして避難訓練及び引き渡し訓練を実施することができた。学校事故等対応マニュアルの作成が遅くなってしまった。夏季休業中には、外部講師を招いて職員研修の反省をもとに、その都度、見直しを行った。 ・学生も一緒にシェイクアウト訓練を実施し、防災安全教育への理解を深める機会をつくることができた。次年度は、回数を増やしたい。
		○学校の防災・安全行事に実習生も参加し、教師の支援や連携した動きを理解する機会とする。(③-1)	・教育実習期間や一日体験日などに定期的なシェイクアウト訓練やJアラート訓練を実施する。	B		
	教育資源 ・環境整備	○児童生徒のより良い学習環境を維持のために、校内の教育資源の整理と活用を行う。(①-1)	<ul style="list-style-type: none"> ・備品室の教材・教具の整理を行い、授業に活用できるようにする。 ・各部で教材・教具の整理や情報交換を行い、備品や教材の活用を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に引っ越し作業があり、これまで以上に必要なものとそうでないものの整理をすることができた。また、保管場所が限られるため、各部で保管場所を共有したり、教材によっては共同で活用したりした。 ・その都度、学生に生徒の実態や社会的な年齢に合わせた環境整備や安全面での配慮などを指導し、支援具づくりに生かすことができた。
		○実習生に教室環境を整える大切さを伝える。(③-1)	・教師が実習生と一緒に児童生徒の登校前や下校後に配慮する点を伝えながら教室環境を整える。	A		
給食指導	○児童生徒が食について関心を持ち、食べる姿勢やよく噛むことの意識を高める。栄養バランスのよい食事を選ぶことができるようにする。(①-1)	・各部と連携し、児童生徒の実態・課題を把握し、食に関する指導を行う。日々の給食の時間を有効活用し、指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の給食の時間に、教室を巡回し、児童生徒の食に関する実態・課題を把握することができた。 ・児童生徒は、食器を持って食べようとするなど、よい姿勢で食べようと意識している様子が見られた。 ・食に関する情報の発信があまりできていないため、今後、掲示物等も作成していきたい。また、家庭には、給食だよりの特別号を配付し、情報提供を活発にしていきたい。 	
	○家庭と連携した給食指導を推進するために、給食の内容や給食指導の目標を発信する(②-2)	・給食だよりの給食メモの作成、学校保健委員会を通して情報提供する。	B			

研究部	学校研究	○音楽の授業作りを通して専門性を高める。(①-2)	・音楽に関する研修会を実施 ・各部の研究検討の時間を設け、授業作りについての専門性を高める。	B	A	・茨城大学秋葉先生に協力いただき、音楽に関する研修会を10月末時点で3回実施。 ・10月に小学部の音楽を校内公開し、授業作りの検討をした。 ・研究成果を9月の日本特殊教育学会で発表。パンフレットを同学会および関係者にて配布。
		○研究成果を発信する。(②-2)	・公開研究会の企画・実施 ・研究成果物(パンフレット)の作成・配布。	A		
研修部	教員研修	○授業づくりに役立つ内容を取り上げ、研修を行うことで、授業力の向上を図る。(①-1)	・授業づくりや指導案作成に関する職員研修を企画、実施する。	A	A	・指導案の様式を一部変更したことを機に目標と評価の一体化、三観点の評価の在り方についての教員研修を行い、理解を深めることができた。 ・教育実習が始まる前に、教員研修としてハラスメントをテーマに取り上げ、児童生徒や同僚だけでなく、学生への言葉遣いや態度についても考えることができた。
		○コンプライアンス研修を通して教員としての資質向上を図り、実習生指導に役立てる。(③-1)	・コンプライアンスに関する研修を企画、実施する。	B		
学習指導部	教科	国語	○カルテの内容を参考に、年計作成・授業づくり・実践を各部で行う。(①-2)	B	・各部、年計や児童生徒の実態を踏まえたうえで、授業づくり及び実践を積み重ねることができた。	
		算数・数学	○カルテを参考に、年計を作成し、児童生徒に合わせた授業づくりを行う。(①-2) ○授業づくりや教材等の情報交換・共有を行う。(①-1)	B	・実態に合わせた年計の作成・見直し、授業づくりを行うことができた。情報やデータを活用した授業内容や教材の共有をさらに進めていきたい。	
		生活・理科・社会	○各種資料を各学部で周知し、授業づくり、実践を各部で進める。(①-1)	B	・各部で生活・理科・社会の要素を取り入れた授業や実践を行うことができた。	
		音楽	○カルテの内容を参考に、各部の実態に応じて学習内容を工夫し、各分野の内容をバランス良く取り入れた授業づくりを行う。(①-2)	A	・各部の研究を中心に、音楽の授業作り及び実践を積み重ねることができた。また、大学の先生の研修を踏まえ、授業改善に努めることもできた。	
		図画工作・美術	○児童生徒の実態に応じた教材開発に努め、様々な表現や鑑賞の活動を通して、児童生徒の豊かな情操を育む。(①-2)	B	・生徒の実態に応じて、季節や学校行事を生かした題材設定や様々な素材や用具の活用をしながら、授業づくりをすることができた。	
		職業・家庭	○校内、校外との交流や連携した体験など、生徒が主体的・体験的に学習することができ、学習活動を計画・実施する。(④-1)	A	・小学部や卒業生、事業所や大学等との交流や連携をした授業を行い、生徒が体験的な学習活動を実施することができた。	
		保健体育	○学部ごとの実態に合わせた授業づくりを行う。(①-2)	B	・工事の関係で、9月以降は体育館の使用ができなかったが、グラウンドや室内の環境を生かして、実態に合わせて授業づくりを進めることができた。年間計画を意識しながらバランスを考えて実施し、教材教具においても工夫しながら作成した。	
		外国語・外国語活動	○オンラインで外国在住の人々と交流をしたり、大学と連携し留学生との交流機会を設定したりするなど、外国語活動や異文化理解、国際交流に関する学習活動を計画・実施する(①-1)。	A	・中学部・高等部においてワールドキャラバンを実施したり、オンラインで外国在住の人々と交流をしたりするなどして、外国語や異文化について学ぶ機会を積極的に設けることができた。	

教科等を合わせた指導

特別活動	○全校集会を定期的実施したり、委員会や係を充実したりすることで、互いに理解・尊重し合う心を育て、「楽しい学校」を実現する。(①-1)	B	・定期的に全校集会を実施することで、各部の交流の機会を設定することができた。 ・各部で委員会を設定したり、各学級で係活動を設定したりすることで、児童生徒が責任をもって活躍できる場を設定することができた。
自立活動	○保健安全部と連携の上で、セラピスト等学校訪問事業を担当し、セラピストとの連絡・調整、訪問指導の計画及び実施をする。(①-1)	A	・保健安全部と連携を図り、2か月前から該当児童生徒についてアナウンスを行い、事業を円滑に実施及び運営することができた。
特別の教科 道徳	○年間指導計画に基づき、計画的に学習を進めることで、生徒が主体的に取り組むことができる授業づくりを行う。(①-1、①-2)	B	・各部の児童生徒の実態に合わせ、道徳的活動や話し合いを通して、児童生徒の主体性を大切に授業づくり及び実践を積み重ねることができた。
総合的な学習 (探究)の時間	○各学部の学習内容を検討し、系統性のある年間指導計画を作成し、生徒が分かる授業づくりをする。(①-1)	B	・各部の学習内容を検討し、系統性のある年間指導計画を作成することはできたが、生徒が主体的に理解することができる授業づくりの検討まではすることができなかった。
日常生活の指導	○日常生活の指導において、各部の実践や課題について係内での情報交換を行い、指導に役立てる(①-1、①-2)	B	・各部で使用した教材や児童生徒の実態や生活年齢に合わせた指導について情報共有を行い、支援・指導に当たった。
生活単元学習	○各部で保有・使用している教材や授業実践について情報交換をすることで、児童生徒の実態に合わせた計画的な授業実践を行う。(①-1、①-2)	B	・各部で実施した授業の内容や、どのような教材を使用したか、情報交換を行い、児童生徒の実態に合わせた授業実践を行った。
キャリア	○大学と連携しながら活動を計画し、働くことの意義や楽しさを実感することができる授業づくりを行う。(①-1)	A	・茨大キャリアでは、高等部は年に6回、中学部は年に1回大学で活動を行った。学生と連携をしながら活動をすすめ、生徒が働くことの意義や楽しさを実感することができた。
遊びの指導	○児童の興味・関心に応じて、教師や友達との関わりを促し、より自発的で活発な展開になるような遊びの内容を計画し、実施する。(①-1)	A	・児童の実態や興味・関心に合わせ、遊具や玩具、素材を通して教師や友達との関わりを促すような授業づくりを行うことができた。